

達第七十一號

艦營需品定額表中左ノ通改正ス

昭和十五年四月一日

海軍大臣 吉田 善吾

工作長主管金工之部

區	別	類別	番號	區供給	品名	數稱	摘	要	記	事
改正	備品	一	五四		鹽酸壺	個	鉛製圓錐型 外徑凡一〇〇耗、高凡五〇耗		供給區分割除	
改正	同	一	九一	陸	旋盤	台	通常附屬品共 內容品ハ艦營需 品工作機械附屬 具標準ニ依ル		番號並ニ摘要改正	
追加	同	一		陸	旋盤 附屬具	組			新規設定	
改正	同	一	九二	陸	鑽揉機	台	通常附屬品共 內容品ハ艦營需 品工作機械附屬 具標準ニ依ル		番號並ニ摘要改正	
追加	同	一		陸	鑽揉機 附屬具	組			新規設定	
改正	同	一	九三	陸	形削機	台	通常附屬品共 內容品ハ艦營需 品工作機械附屬 具標準ニ依ル		番號並ニ摘要改正	
追加	同	一		陸	形削機 附屬具	組			新規設定	

達

一六三

0174

改正	同	一	九五	陸	輓轆 双 機械	台	通常附屬品共	内容品ハ艦營需 品工作機械附屬 具標準ニ依ル	番號並ニ摘要改正
追加	同	一		陸	輓轆 双 機械 附屬具	組			新規設定

附則

各部隊ニ供用中ノ旋盤、鑽採機械、形削機械、輓轆双機械ノ附屬品ハ艦營需品工作機械附屬具標準ニ依リ各機械附屬具ニ分離組替シ同標準ニ適合セザルモノハ艦營需品經理規程第二十八條ニ依リ處理スベシ

達第七十二號

舊驅逐艦ヲ特務艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十五年四月一日

海軍大臣 吉田 善 吾

- 第一 號哨戒艇 (舊驅逐艦島風)
- 第二 號哨戒艇 (舊驅逐艦灘風)
- 第三十一 號哨戒艇 (舊驅逐艦菊)
- 第三十二 號哨戒艇 (舊驅逐艦葵)

0175

海軍諸例  
則登載

- 第三十三號哨戒艇 (舊驅逐艦秋)
- 第三十四號哨戒艇 (舊驅逐艦薄)
- 第三十五號哨戒艇 (舊驅逐艦葛)
- 第三十六號哨戒艇 (舊驅逐艦藤)
- 第三十七號哨戒艇 (舊驅逐艦菱)
- 第三十八號哨戒艇 (舊驅逐艦麥)
- 第三十九號哨戒艇 (舊驅逐艦蓬)
- 第四十六號哨戒艇 (舊驅逐艦夕顔)

達第七十三號

海軍省處務規程中左ノ通改正ス

昭和十五年四月一日

海軍大臣 吉田 善吾

第十五條ノ三 電信課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省及東京所在各廳(軍令部及東京海軍通信隊ヲ除ク)發著ノ電報及噴送文書ノ處理ニ關ス

達

一六五

0176

ルコト

- 二 暗號書表ノ使用ニ關スルコト
- 三 暗號ノ維持ニ關スルコト
- 四 電信ノ取締ニ關スルコト
- 五 前諸號ニ係ル規程及命令ニ關スルコト
- 六 通信ニ關スル研究資料ノ蒐集ニ關スルコト
- 第十七條第十號中「通信」ノ下ニ「(電信課ノ所掌ヲ除ク)」ヲ加フ
- 第十九條第三號中「救護」ヲ「援護」ニ、同條第六號中「海軍豫後備役軍人」ヲ「海軍在郷軍人」ニ改メ同條第四號ヲ第五號トシ以下第十號迄一號宛線下グ第十一號ヲ第十三號、第十二號ヲ第十四號トシ同條第四號及第十二號トシテ左ノ二號ヲ加フ
- 四 海軍軍人及軍屬ノ救恤及福祉ニ關スルコト
- 十二 離現役海軍軍人ノ就職及職業輔導ニ關スルコト
- 第二十八條第五號ヲ左ノ如ク改ム
- 五 損害補償及慰藉ノ審査ニ關スルコト

0177

第二十九條 經理局第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省及東京所在各廳（歳入徴收官又ハ支出官ヲ置ク廳ヲ除ク）ニ屬スル歳入歳出ノ豫算及決算ニ關スルコト

二 本省及東京所在各廳（歳入徴收官又ハ支出官ヲ置ク廳ヲ除ク）ニ屬スル歳入歳出ノ收支ニ關スルコト

三 艦隊經費ノ整理ニ關スルコト

四 本省及其ノ構内ニ在ル各廳ノ應用物品ノ供給並ニ郵便、電信及電話ノ取扱ニ關スルコト

五 賜金、契約保證金、恤兵金品、國防獻金品、學術技藝獎勵金品等ノ取扱ニ關スルコト

六 統計及年報材料ニ關スルコト

七 局中他課ノ所掌ニ屬セサル事項ニ關スルコト

第二十九條ノ二ヲ第二十九條ノ三トス

第二十九條ノ二 經理局第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 賣買、貸借、請負其ノ他ノ契約ニ關スルコト

二 統制契約ニ關スルコト

達

一六七

0178



達

(諸例則卷一、九一頁参照)

計	法務局	建築局
百二十六人	五	六
十七人		一一

一六九

0180

達第七十四號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十五年四月一日

海軍大臣 吉田 善吾

第百條 本則第九十五條第二項乃至第九十九條ニ依リ貸與スル被服物品ヲ貸與品トシ其ノ他ヲ消耗品トス

第百一條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル

第百三條及第百四條中「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ

第百五條第二項中「第一種消耗品」ヲ「消耗品」ニ改ム

第百五條ノ二 兵備品會計官吏又ハ分任兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ニ消耗品ヲ供給シ又ハ其ノ還納ヲ受ケタルトキハ四月、十月ノ二期ニ於テ前六箇月分ノ被服物品供給還納報告書（第三號ノ二書式）ヲ作り其ノ月二十日迄ニ該艦船在籍鎮守府所在地兵備品會計官吏ニ送付スヘシ

分任兵備品會計官吏所管鎮守府在籍ノ艦船ニ消耗品ヲ供給シ又ハ其ノ還納ヲ受ケタルトキハ前項ニ依ル報告書ヲ兵備品會計官吏ニ送付スルモノトス

達

一七一

0181



第六六條中「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ  
 第六七條第一項中「分任兵備品會計官吏ノ現品検査」ヲ「兵備品取扱主任ノ現品検査」ニ改メ「分  
 任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル  
 同條第三項中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル  
 第六九條、第七十條及第七十一條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル  
 第七十三條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削リ「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計  
 官吏」ヲ加フ  
 第七十四條中「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ  
 第七十五條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削リ「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計  
 官吏」ヲ加フ  
 第七十七條中「分任兵備品會計官吏」ヲ「兵備品取扱主任」ニ改ム  
 第七十八條中「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ  
 第七十九條第一項中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル  
 同條第二項中「分任兵備品會計官吏及」ヲ削リ「第一種消耗品」ヲ「消耗品」ニ改ム

第二百十條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル

第二百二十九條中「砂糖入乾麴麩」ヲ「乾パン」ニ、「貯藏獸魚肉」ヲ「罐詰獸魚肉」ニ、「特種貯藏獸魚肉」ヲ「罐詰味付獸魚肉」ニ改ム

第三百三十一條第三項中「分任兵備品會計官吏若ハ」ヲ削ル

第三百二十九條 削除

第四百十條 軍需部長及要港部主計長ハ軍需局長ノ定ムル地域内便宜ト認ムル地方ニ糧食品(乾パン、罐詰鳥獸魚肉及罐詰味付鳥獸魚肉ヲ除ク)供給請負人ヲ置クヘシ

第四百十一條中「第一種消耗品」ヲ「糧食品」ニ改メ「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ

第四百十二條中「分任兵備品會計官吏若ハ」ヲ削リ「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ

第四百十三條第一項中「第一種消耗品」ヲ「糧食品」ニ、第二項ヲ左ノ如ク改ム

兵備品取扱主任軍港外又ハ軍需部ヲ置ク要港外ニ於テ糧食品ヲ要スルトキハ請負人ヨリ受込ムヘシ但シ分任兵備品會計官吏所在地ニ在リテハ前項ノ規定ニ準スルモノトス

達

一七三

0183

第四百十六條中「分任兵備品會計官吏若ハ」ヲ削リ「第二種消耗品」ヲ「乾パン、罐詰鳥獸魚肉及罐詰味付鳥獸魚肉」ニ、「第一種消耗品」ヲ「糧食品」ニ改ム

第四百十七條中「第一種消耗品」ヲ「糧食品」ニ改ム

第四百十八條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル

第四百十九條中「分任兵備品會計官吏若ハ」ヲ削ル

第四百二十二條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削リ「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ

第四百二十三條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削リ但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ嗜好糧食品ノ購買ハ軍港及軍需部ヲ置ク要港ニ於テハ軍需部、軍需部ヲ置カサル要港ニ於テハ要港部主計長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第四百五十五條中「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ

第四百五十六條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル

第四百五十七條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削リ「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ

0184

第一百五十八條中「兵備品會計官吏」ノ下ニ「又ハ分任兵備品會計官吏」ヲ加フ

第一百五十九條中「分任兵備品會計官吏又ハ」ヲ削ル

第一百六十二條中「軍需部長」ノ下ニ「要港部主計長」ヲ加ヘ「及經理部並兵備品取扱主任」ヲ「他要港部、經理部及分任兵備品會計官吏並兵備品取扱主任」ニ改ム

第十七表中「四號絨」ヲ「一號羅紗」ニ、「五號絨」ヲ「二號羅紗」ニ、「裏絨」ヲ「三號羅紗」ニ、「毛縞子」ヲ「綾絹」ニ、「ドツク一號」ヲ「麻織」ニ、「葛城織」ヲ「葛城木綿」ニ、「晒木綿縮」ヲ「縮晒木綿」ニ、「鈕釦」ヲ「釦」ニ改ム

第二十表中「生麵麩」ヲ「生パン」ニ、「砂糖入乾麵麩」ヲ「乾パン」ニ、「壓搾麥」ヲ「精麥」ニ、「貯藏獸肉」ヲ「罐詰獸肉」ニ、「貯藏魚肉」ヲ「罐詰魚肉」ニ、「第一種漬物」ヲ「新漬物」ニ、「第二種漬物」ヲ「舊漬物」ニ、「麵麩」ヲ「パン」ニ改メ備考第二十六號、第二十九號及第三十號ヲ左ノ如ク改ム

二十六、罐詰獸肉ハ「コンドビーフ」、「ローストビーフ」等、罐詰魚肉ハ水煮鮭、鱈、鱒、鯖、鯉、鰯等トス

二十九、新漬物ハ淺漬、澤庵新漬等、舊漬物ハ澤庵舊漬、福神漬、味噌漬、辛子漬、奈良漬、梅

達

干、紅生姜等トス新、舊漬物ノ兩種ヲ併用スルトキハ各其ノ半額トス

三十、白砂糖ハ生パンヲ給スル場合ニ給スルモノトス

第二十表ノ二中「砂糖入乾麩」ヲ「乾パン」ニ、「生麩」ヲ「生パン」ニ、「壓搾麥」ヲ「精麥」ニ、「貯藏鳥獸肉」ヲ「罐詰鳥獸肉」ニ、「特種貯藏鳥獸肉」ヲ「罐詰味付鳥獸肉」ニ、「貯藏魚肉」ヲ「罐詰魚肉」ニ、「特種貯藏魚肉」ヲ「罐詰味付魚肉」ニ、「貯藏獸肉」ヲ「罐詰獸肉」ニ、「第一種漬物」ヲ「新漬物」ニ、「第二種漬物」ヲ「舊漬物」ニ、「麩」ヲ「パン」ニ、備考第九號及第一〇號ヲ左ノ如ク改ム

九、罐詰獸肉ハ「コンドビーフ」、「ローストビーフ」等、罐詰魚肉ハ水煮鮭、鱈、鯉、鯖、鰹、鰯等トス

一〇、新漬物ハ淺漬、澤庵新漬等、舊漬物ハ澤庵舊漬、福神漬、味噌漬、辛子漬、奈良漬、梅干、紅生姜等トス新、舊漬物ノ兩種ヲ併用スルトキハ各其ノ半額トス

第二十表ノ三中「生麩」ヲ「生パン」ニ、「貯藏鳥獸肉」ヲ「罐詰鳥獸肉」ニ改ム

第二十一表中「生麩」ヲ「生パン」ニ、「砂糖入乾麩」ヲ「乾パン」ニ、「壓搾麥」ヲ「精麥」ニ、「貯藏獸肉」ヲ「罐詰獸肉」ニ、「特種貯藏獸肉」ヲ「罐詰味付獸肉」ニ、「貯藏鳥肉」ヲ「罐詰鳥肉」

0186

ニ、「特種貯藏鳥肉」ヲ「罐詰味付鳥肉」ニ、「貯藏魚肉」ヲ「罐詰魚肉」ニ、「特種貯藏魚肉」ヲ「罐詰味付魚肉」ニ、「第一種漬物」ヲ「新漬物」ニ、「第二種漬物」ヲ「舊漬物」ニ、「固形醬油」ヲ「乾燥醬油」ニ改メ「乾麵麩」ヲ削ル

第三號書式甲中「分任兵備品會計官吏」ヲ「兵備品取扱主任」ニ改ム

第三號ノ二書式中「第一種消耗品」ヲ削リ「兵備品會計官吏職氏名印」ヲ「兵備品會計官吏（分任兵備品會計官吏）職氏名印」ニ改ム

第四號書式中「分任兵備品會計官吏」ヲ削リ、備考二中「某軍需部所屬」ヲ「某軍需部又ハ某要港部所屬」ニ、備考三中「庇又ハ立」ヲ「庇、立又ハ食」ニ改ム

第二號書式（甲）、第二號書式（乙）、第二號ノ二書式、第二號ノ三書式、第三號書式（乙）、第三號書式（丙）、第五號書式及第七號書式ヲ別紙ノ通改ム

第八號書式中「生麵麩」ヲ「生パン」ニ、「砂糖入乾麵麩」ヲ「乾パン」ニ、「壓搾麥」ヲ「精麥」ニ、「貯藏獸肉」ヲ「罐詰獸肉」ニ、「特種貯藏獸肉」ヲ「罐詰味付獸肉」ニ、「貯藏魚肉」ヲ「罐詰魚肉」ニ、「第一種漬物」ヲ「新漬物」ニ、「第二種漬物」ヲ「舊漬物」ニ改ム

附則

達

一七七

0187

達

一七八

書式ヲ變更シタル用紙ハ在庫品ノ在ル限リ適宜訂正シ之ヲ使用スルコトヲ得

(別紙八葉添)

達第七十五號

大正十四年達第四百四號中左ノ通改正ス

昭和十五年四月一日

海軍大臣 吉田善吾

第二號中「乾麴及貯藏獸魚肉」ヲ「乾パン及罐詰獸魚肉」ニ、「特種貯藏鳥獸魚肉」ヲ「罐詰味付鳥獸魚肉」ニ改ム

(會計法規類集中卷一五八ノ三頁參照)

0188

第二號書式（甲）（第七條ノ請求書及領收書） 用紙美濃紙

（昭和十五年達第七十四號別紙）

月分被服物品消耗品交付交換 書															第	分隊長										
官職氏名	禮衣袴	軍衣袴	夏衣袴	胴衣	外衣	雨衣	軍帽	襦袢	夏襦袢	中着襟	袴下	夏袴	脚絆	襟飾	帶皮	半靴	毛布	蒲覆	衣囊	腹巻	紺足袋	事業服上衣袴	掃除服	事由		
計																										

（前送ノ分ト引換相成度）

注意 品ノ交付交換影 朱書スルモノトス

0189



第二號書式(乙) (第七條ノ請求書) 用紙美濃紙

(昭和十五年達第七十四號別紙)

月分被服物品消耗品交付請求書															第 分隊長					
官 職 氏 名	特 修 別	臂 章			特 技 章			善 行 章					軍 帽	軍 章	事 由					
		一 等 下 士 官	二 等 下 士 官	三 等 下 士 官	一 等 兵	二 等 兵	三 等 兵	特 修 科	高 等 科	普 通 科	航 空 術	一 線	二 線	三 線		四 線	五 線	下 士 官	軍 樂 兵	櫻 花 章
		夏																		
		冬																		
		夏																		
		冬																		
		夏																		
		冬																		
		夏																		
		冬																		
		夏																		
		冬																		
計		夏																		
		冬																		

備考 被服物品交付ノトキ本請求書ニ捺印セシメ領收證ト爲スモノトス

0190

第二號ノ二書式 (第百七條第三項ノ交付證) 用紙美濃罽紙

(昭和十五年達第七十四號別紙)

所轄長印					交付證	
品名	數稱	數量	記事			
帽 日 覆	個		下士官及兵	何人分		
靴 下	組		下士官及兵	何人分		
カ ラ 一	個		何個交付人員	何人		
何 々			何個交付人員	何人		
何 々						
上記ノ通交付候也						
年 月 日						
兵備品取扱主任 官 氏 名 印						

0191

<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">所轄 長印</span> <span>交 付 證</span> </div>										
		水 兵	航空兵	機關兵	工作兵	主計兵	看護兵	軍樂兵	何々	合 計
交 付 人 員										
品 名	數稱	數 量		品 名	數稱	數 量				
		新 品	古 品			新 品	古 品			
上記ノ通交付候也 年 月 日 兵備品取扱主任 官 氏 名 印										

0192

(注意) 兵海軍部外ヨリ初メテ入團又ハ入隊ノ際被服物品ヲ交付スルトキハ本表ニ依ル

第三號書式(乙) (第一百條ノ遺留被服物品票) 用紙美濃罌紙 (昭和十五年達第七十四號別紙)

主計長 印 遺 留 被 服 物 品 票									
分隊長其他ヨリ 受領年月日		年 月 日		不在者 官(職)氏名		一等兵曹(水兵) 何		某 印	
品 名	數稱	數 量	品 名	數稱	數 量	品 名	數稱	數 量	
下士官軍衣袴	組	1							
下士官軍樂兵軍帽	個	1							
下士官兵外套	個	1							
毛 布	個	1							
何 々									
本人へ交付ノ爲分隊長へ 移 送 年 月 日			年 月 日 印						
給與令施行細則第一百條 第三項ニ依リ還付年月日			年 月 日 印						
記 事									

0193

備 考

1. 分隊長ヨリ現品又ハ證明書若ハ調定書ヲ受ケタルトキ主計長ハ本表ヲ調製ス
2. 本票ノ物品ヲ本人へ交付ノ爲メ分隊長ニ移シタルトキハ其ノ年月日ヲ記入シ主計長之ヲ捺印シ  
分隊長之ヲ交付シタルトキハ本人ヲシテ氏名ノ下ニ捺印セシム
3. 給與令施行細則第一百條第三項ニ依リ還付シタルトキハ其ノ年月日ヲ記入シ主計長捺印スベシ
4. 保管中本人所屬ヲ轉シタルトキハ其旨記事欄ニ記入スベシ



第五號書式 (第三百一十一條ノ書式) 用紙美濃野紙

(昭和十五年達第七十四號別紙)

年 月 日 何々主計長 ㊟ 軍需部長宛 年 月分糧食給與報告書					
品名	數量	單價	代價	記事	
				何々ノ事由ニ依リ給與ス食料減給高次ノ通	
				區別	金額
				艦長室	
				士官室	
				士官次室	
				何々	
				計	
何々ノ單價ハ何月何日何地ニ於テ直接購買シタルモノナリ					

0195

第七號書式 (第百五十七條ノ書式) 用紙美濃野紙

(昭和十五年達第七十四號別紙)

糧 食 品 檢 査 書			
品 名		製 造 場 所	
糧食品及其ノ 數量代價		製 造 者 氏 名	
上 納 年 月		上 納 者 氏 名	
庫 納 年 月		保 存 期 限	
保存期限經過月		檢 査 年 月	
倉 庫 模 様 檢 査 方 法			
判 定 記 事			
書 面 ノ 通 = 候 也			
年 月 日			
委 員 官 氏 名 ㊟			

0196

海軍諸例  
則登載

達第七十六號

海軍艦政本部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十五年四月五日

海軍大臣 吉田 善 吾

第十一條第二號中「砲熷實驗部」ノ上ニ「材料研究部、」ヲ加フ  
第十三條第二號中「電氣研究部、」ノ下ニ「音響研究部、」ヲ加フ

(諸例則卷一、一二〇頁參照)

達第七十七號

大正十二年達第五十號海軍技術研究所處務規程及昭和五年達第八十八號ハ之ヲ廢止ス

昭和十五年四月五日

海軍大臣 吉田 善 吾

參照 昭和五年達第八十八號ハ海軍技術研究所ノ出張所ヲ置クノ件ナリ、諸例則卷一、一三〇頁、一三二頁

(達第七十四號ハ後送ス)

達

一七九

0197



海軍諸例  
則削除

達第七十八號

昭和十一年達第九十號海軍工廠處務規程、昭和七年達第二十一號海軍航空技術廠處務規程、昭和十四年達第一百十一號海軍火藥廠處務規程、昭和十二年達第四十三號海軍燃料廠處務規程及昭和十二年達第九十號ハ之ヲ廢止ス(濟)

昭和十五年四月五日

海軍大臣 吉田 善吾

海軍諸例  
則登載

達第七十九號

見習工員ノ實習成業等ニ關シ左ノ通定ム

昭和十五年四月五日

海軍大臣 吉田 善吾

見習工員ハ工員養成所教育規程ニ定ムル見習科ノ教育又ハ之ニ準ズル教育ヲ修了シタル後所屬部工

參照 諸例則卷一、二二八頁、三二一頁、三二六ノ二頁及三二九頁、昭和十二年達第十二號ハ海軍工廠航空機部工場ノ分工場ヲ置ケ地ヲ定ムルノ件ナリ(諸例則卷一、二二三頁)

達

一八〇

0198

場ニ於テ一年實習セシメ其ノ修了ヲ以テ成業トス但シ工作科豫備補習生ヲ命ゼラレ共ノ教育ヲ修了シタルトキハ之ヲ以テ成業トス

○正誤 濟

達第三十一號中「ハチジヨウ」ハ「ハチヂヤウ」ノ、同第六十四號中「艦船部隊其ノ他各部毎ニ採用員數ヲ定メ入校期日ト共ニ之ヲ通達シ」ハ「採用員數ヲ定メ入校期日ト共ニ之ヲ通達シ」ノ誤

達

一八一

0199

海軍諸例  
則登載

達第八十號

海軍工員規則中左ノ通改正ス

昭和十五年四月五日

海軍大臣 吉田 善 吾

第九十條中「對シ」ノ下ニ「工員養成所教育規程ニ依ルノ外」ヲ加フ

第九十條ノ二 工員養成所ヲ置カレザル各廳ニ於ケル見習工員等ノ教育ニ關シテハ工員養成所教育規程ヲ準用スルモノトス

(諸例則卷三、五六四ノ三四頁參照)

達

一八三

0200

達第八十一號

工員養成所教育規程左ノ通定ム

昭和十五年四月五日

海軍大臣 吉田善吾

工員養成所教育規程

第一章 總則

第一條 工員養成所ヲ置カレタル各應ノ長（以下單ニ廳長ト稱ス）ハ教務規程共ノ他執務ニ關スル細則ヲ定メ之ヲ實施スベシ但シ教務規程ニ關シテハ豫メ海軍大臣ノ承認ヲ得ルヲ要ス

第二條 廳長ハ所長ヲシテ工員養成所ノ紀律ヲ維持セシムベシ

第三條 工員養成所ニ見習科、補修科、選科及青年科ヲ置ク

見習科、補修科、選科及青年科ニ於テ養成スル工員ヲ夫々見習科工員、補修科工員、選科工員及青年科工員ト稱ス

各科工員ヲ養成工員ト總稱ス

第四條 工員養成所ニ於ケル各科ノ學年ノ始期ヲ毎年四月一日終期ヲ其ノ翌年三月三十一日トス

達

一八五

0201

第五條 毎年採用スベキ見習科工員、補修科工員及選科工員ノ員數ハ海軍艦政本部長之ヲ定メ前年九月末日迄ニ關係ノ廳長ニ通知スベシ但シ航空關係又ハ燃料關係ノモノニ在リテハ夫々海軍航空本部長、海軍省軍需局長ト豫メ協議スルモノトス

第六條 廳長ハ各學年ノ終業期ニ於テ見習科工員、補修科工員及選科工員ノ修業成績及卒業成績ニ意見ヲ附シ之ヲ所屬長官ニ報告スルト共ニ海軍艦政本部長及航空關係ノモノハ海軍航空本部長ニ、燃料關係ノモノハ海軍省軍需局長ニ通報スベシ修業成績及卒業成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用フルモノトス

## 第二章 見習科

第七條 見習科ノ教育ハ將來海軍工員ノ中堅タルベキ見習工員ノ心身ヲ鍛練シ徳性ヲ涵養スルト共ニ業務遂行上必須ナル知識技能ノ素地ヲ授クルヲ以テ目的トス

第八條 見習科工員ハ高等小學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル年齢滿十四年以上十七年以下ノ者ニシテ將來工作科豫備補習生タルニ適スル性能ヲ有シ且見習期間及成業後三年間解備ヲ出願セザル旨誓約スルモノノ中ヨリ之ヲ選拔ス

第九條 見習科ノ修業年限ヲ二年トシ之ヲ第一學年及第二學年ニ分ツ

0202

第十條 見習科工員ハ工具養成所附屬寄宿舎ニ起臥セシム但シ第二學年ニ在リテハ所長ノ許可ヲ受ケ家庭ヨリ通勤スルコトヲ得

第十一條 見習科ノ教育ヲ大別シテ精神教育、學術教育及實業教育トス

第十二條 精神教育及學術教育ニ於テ施スベキ科目及其ノ教授時數標準左ノ如シ

學科	學年	精神教育		學術教育								
		修身	公民	國語	地理	國史	數學	理科	英語	圖學	工場及工作法	材料
第一學年	每週教授時數	一	二	一	一	一	四	三	一	三	二	二
第二學年	每週教授時數	一	二	一	一	一	四	二	一	三	一	二

達

一八七

0203

備考	合	計	二〇	二〇
	専門工學			一

一 數學ニハ算術、代數、幾何及三角ノ諸科目ヲ含ム

二 理科ニハ物理、化學及電氣ノ諸科目ヲ含ム

三 圖學ハ圖學及製圖トス

四 工場要項ハ海軍工務規則、海軍工具規則、工場衛生及災害防止トス

五 材料及工作法ハ材料強弱學ヲ含ム

六 専門工學ハ造船學、造機學、造兵學及航空機學トス

第十三條 實業教育ハ之ヲ大別シテ基本實業ト職種別實業トシ精神教育及學術教育ノ教授時間外ノ服業時間内ニ於テ實施ス

第十四條 基本實業ハ之ヲ第一學年ノ初期ヨリ約一年實習場ニ於テ實地作業ノ練習ヲ爲サシム

職種別實業ハ基本實業修了後實習場又ハ關係部工場ニ於テ實施ス但シ關係部工場ニ於テ實施スル場合ニハ關係部長ヲシテ監督指導セシムルモノトス

0204

第三章 補修科

第十五條 補修科ノ教育ハ工作科豫備兵タル海軍工員ニ對シ幹部工員タルニ適スル徳性ト業務上必須ナル學術技能トヲ授クルヲ以テ目的トス

第十六條 補修科工員ハ工作科豫備兵ニシテ左ノ各號ニ適合スルモノノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 年齡滿二十三年以下ノ者

二 海軍工員トシテ引續キ一年以上（見習工員トシテ入業シタルモノハ見習成業後一年以上）勤務ノ者

三 身體強健、品行方正ニシテ幹部工員タルニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムルモノ

第十七條 補修科ノ修業年限ヲ二年トシ之ヲ第一學年及第二學年ニ分ツ

第十八條 補修科ノ教育ヲ大別シテ精神教育、學術教育及實業教育トス

第十九條 精神教育及學術教育ニ於テ施スベキ科目及其ノ教授時數標準左ノ如シ

精神教育	修身及武技	學科	
		第一學年	第二學年
一	一	每週教授時數	每週教授時數
一	一		

達

一八九

0205



第二十條 實業教育ハ精神教育、學術教育ノ教授時間外ノ服業時間内ニ於テ實施ス

備考	合	育 教 術 學	專 門 工 學	材 料 及 工 作 法	工 場 要 項	圖 學	英 語	理 學	數 學	國 語
	計	二〇	三	一	一	三	二	四	四	一
一 數學ニハ代數、幾何、解析幾何、三角及微積分ノ諸科目ヲ含ム	二〇	二〇	三	一	一	三	二	三	四	一
二 理科ニハ物理、化學、力學、應力、水力及電氣ノ諸科目ヲ含ム										
三 圖學ハ製圖及設計ノ大要トス										
四 工場要項ハ工場管理、能率、統計及災害防止ノ大要トス										
五 材料及工作法ハ材料強弱學、工作法及機構學トス										
六 専門工學ハ造船學、造機學、造兵學、航空機學及電氣工學トス										

第二十一條 實業教育ハ關係部工場ニ於テ之ヲ實施シ實地作業ノ練習ヲ爲サシメ且應用的作業ニ習熟セシムル如ク訓練シ關係部長ヲシテ監督指導セシムルモノトス

#### 第四章 選科

第二十二條 選科ノ教育ハ中學校（工業學校、商業學校、藥學校等ヲ含ム）ヲ卒業シタル滿十八年以下ノ海軍工員ニ對シ幹部工員タルニ適スル徳性ト業務上必須ナル學術技能トヲ授クルヲ以テ目的トス

第二十三條 選科工員ハ中學校（工業學校、商業學校、藥學校等ヲ含ム）ヲ卒業シ左ノ各號ニ適合スル者ノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 年齢滿十八年以下ノ者

二 工作科豫備補習生タルニ適スル性能ヲ有スル者

三 身體強健、品行方正ニシテ幹部工員タルニ適スル性能學力ヲ有スト認ムル者

第二十四條 選科ノ修業年限ヲ一年トス

第二十五條 選科ノ教育ヲ大別シテ精神教育、學術教育及實業教育トス

第二十六條 精神教育及學術教育ニ於テ施スベキ科目及其ノ教授時數標準左ノ如シ

達

一九一

0207

達

備考 一 數學ニハ代數、幾何、解析幾何、三角及微積分ノ諸科目ヲ含ム 二 理科ニハ物理、化學、力學、應力、水力及電氣ノ諸科目ヲ含ム 三 圖學ハ製圖及設計ノ大要トス 四 工場要項ハ海軍工務規則、海軍工員規則、工場衛生、災害防止	合	學術教育	精神教育	學科
	計	國數理圖工 學科學科學 史	武教修 技練身公 民	科目
	二〇	一 二 二 三 三 三	一 二 一	每週教授時數

一九二

0208

及工場管理ノ大要トス

五 材料及工作法ハ材料強弱學、工作法及機構學トス

六 専門工學ハ造船學、造機學、造兵學、航空機學及電氣工學トス

第二十七條 實業教育ハ之ヲ大別シテ基本實業ト職種別實業トシ精神教育及學術教育ノ教授時間外ノ服業時間内ニ於テ實施ス

第二十八條 基本實業ハ實習場ニ於テ實地作業ノ練習ヲ爲サシム

職種別實業ハ關係部工場ニ於テ之ヲ實施シ關係部長ヲシテ監督指導セシムルモノトス

#### 第五章 青年科

第二十九條 青年科ノ教育ハ青年學校令ノ定ムル所ニ依リ海軍工員タル男子青年工員ノ心身ヲ鍛練シ徳性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス

第三十條 青年科ニハ青年學校令第十二條ノ規定ニ該當シ現ニ海軍工作廳ニ在籍スル男子工員及其ノ他ノ男子工員ニシテ特ニ必要ト認ムル者ヲ就學セシム

第三十一條 青年科ヲ分チテ普通科、第一本科及第二本科トス

達

一九三

0209

普通科及第二本科ハ必要ニ應ジ之ヲ設置ス但シ之ガ設置ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル  
 第三十二條 普通科及第一本科ノ課程、學年、教授及訓練ノ日時並ニ就學等ニ關シテハ青年學校令  
 施行規則ニ依ルノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第三十三條 普通科ノ教授及訓練期間ヲ二年トス

第三十四條 第一本科ノ教授及訓練期間ヲ四年トス

第三十五條 普通科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數左ノ如シ

教授及訓練科目	學年	
	第一學年	第二學年
修身及公民科	二〇	二〇
普通學科	九〇	九〇
職業科	六〇	六〇
體操科	四〇	四〇
合計	二二〇	二二〇

第三十六條 第一本科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數左ノ如シ

0210

教授及訓練科目	年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身及公民科	三〇	三〇	二〇	二〇
普通學科	八〇	八〇	九〇	九〇
職業科	一〇〇	一〇〇	九〇	九〇
教練科	九〇	九〇	九〇	九〇
合計	三〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇

第三十七條 見習科ヲ修了シ現ニ工作科豫備補習生ニ非ザル見習工員ニシテ青年學校令第十二條ノ

規定ニ該當スル者ハ必要ニ應ジ之ヲ第二本科第一學年ニ編入セシム

第三十八條 第二本科ノ教授及訓練期間ヲ二年トス

第二本科ノ各學年ニ於ケル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數左ノ如シ

教授及訓練科目	年	
	第一學年	第二學年
修身及公民科	二〇	二〇

達

一九五

0211

教	練	科	八〇	八〇
合	計		一〇〇	一〇〇

第六章 試験及卒業

第三十九條 各學年ノ終ニ於テ學年試験ヲ行フ但シ青年科ニ於テハ之ヲ行ハザルコトヲ得

第四十條 所長ハ學年中途ニ於テ適宜學期試験ヲ行ヒ又科目ニ依リテハ平常ノ實績ニ依リ評點ヲ付與スルコトヲ得

第四十一條 學年試験ノ得點ニ前條ノ得點ヲ加ヘタルモノヲ以テ該學年ノ修業成績トス

第四十二條 各學年ノ修業成績得點ノ合計得點ヲ以テ卒業成績トシ及第ノ者ニ卒業證書ヲ授與ス

第四十三條 戰時又ハ事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ海軍大臣ハ青年科ヲ除ク各科ノ教育ヲ中止シ又ハ修業期間ヲ短縮セシムルコトアルベシ

0212

達第八十二號

海軍工作廳工事費整理規則申左ノ通改正ス

昭和十五年四月五日

海軍大臣 吉田善吾

第二號書式出而簿區別欄中

附ノ行支給額ノ部ヲ

達

支 給 額	A
	B
	C+D
	計

ニ改ム

定 時 間	一 般 勤 勉 加 給	常 時 勤 勉 加 給	特 種 勤 勉 加 給	不 就 業 日 賃 給	夜 業 加 給 及 當 直 給	其 ノ 他
A	B	C	D		E	

ヲ

定 時 間	增 服 業 勤 勉 加 給	勤 勉 加 給	特 種 勤 勉 加 給	不 就 業 日 賃 給	夜 業 加 給 及 當 直 給	其 ノ 他
A	B	C	D			

ニ、同書式日

一九七

0213



達

(會計法規中卷書式八四頁參照)

一九八

0214



達

現ニ航海長主管ニ供用中ノモノハ其ノ儘同主管備品「信號受信板」ニ移管ノコト

二〇〇

0216

達第八十四號

海軍治療品經理規程中左ノ通改正ス

昭和十五年四月十日

海軍大臣 吉田 善 吾

甲第一號表中「イリガートル」ノ次醫療箱ノ部ニ

應急醫療箱	甲	具	一	一	一	二	二
應急醫療箱	乙	具	一	一	一	二	二
應急醫療箱	丙	具	一	一	一	二	二
應急醫療箱	丁	具	一	一	一	二	二
應急醫療箱	戊	具	一	一	一	二	二

ヲ、一號ガス救急箱ノ項ノ次ニ

二號ガス救急箱

具 同

ヲ、驅血帶ノ項ノ次ニ

携帶

エツクス線装置 具 必要ニ際シ之ヲ備フ

ヲ加ヘ一號ガス治療具甲、一號ガス治療具乙、二號

ガス治療具甲及二號ガス治療具乙ノ各項ヲ削ル

達

二〇一

0217

乙第一號表中舞鶴ノ欄ヲ削リ「イリガートル」ノ項ノ次ニ

箱		療		醫	
應急醫療箱	戊	應急醫療箱	丁	應急醫療箱	甲
具	具	具	具	具	具
一	一	一	一	一	一

ヲ、

一號ガス救急箱ノ項ノ次ニ

二號ガス救急箱 具 同

ヲ、クランプノ項ノ次ニ

携帯エ

ツクス線装置 具 一

ヲ加ヘ一號ガス治療具甲及一號ガス治療具乙ノ各項ヲ削ル

丙第一號表中一號ガス救急箱ノ項ノ次ニ

二號ガス救急箱 具 同

ヲ加フ

丙第二號表中握力計ノ項ノ次ニ

箱		療		醫	
應急醫療箱	戊	應急醫療箱	丁	應急醫療箱	甲
具	具	具	具	具	具
一	一	一	一	一	一

ヲ加ヘガス具ノ部ヲ削ル

0218

達

丁第一號表中「イリガートル」ノ項ノ次ニ

醫 療 箱				
應急醫療箱	應急醫療箱	應急醫療箱	應急醫療箱	應急醫療箱
戊	丁	丙	乙	甲
具	具	具	具	具
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一

ヲ、一號ガス救急箱ノ項ノ次ニ

二號ガス救急箱

具 同

ヲ、腦血帶ノ項ノ次ニ

携帶

エックス線装置

具 一 一 一 一

ヲ加ヘ一號ガス治療具甲及一號ガス治療具乙ノ各項

ヲ削ル

戊第一號表中「イリガートル」ノ項ノ次ニ

醫 療 箱				
應急醫療箱	應急醫療箱	應急醫療箱	應急醫療箱	應急醫療箱
戊	丁	丙	乙	甲
具	具	具	具	具
二	一	二	二	二
一	一	一	一	一

ヲ、一號ガス

一〇三

0219

達

二〇四

救急箱ノ項ノ次ニ	二號ガス救急箱	具	同	ヲ、螢光板ノ項ノ次ニ	携帯エツクス線装
置	具	四	二	ヲ、患者運搬車ノ項ノ次ニ	患者手箱
項ノ次ニ	寢	臺	個	必要數ヲ備フ	必要數ヲ備フ
必要數ヲ備フ	ヲ加へ移動エツクス線装置、一號ガス治療具甲及一號ガス治療具乙ノ各項ヲ削ル	甲第十號表、丙第七號表、丁第七號表中「過酸化水素水」ヲ「オキシドール」ニ改ム	庚號表中「入附過酸化水素水」ヲ「入附オキシドール」ニ、 「過酸化水素水アンプル」ヲ「オキシドールアンプル」ニ改ム	辛號表中「入附過酸化水素水」ヲ「入附オキシドール」ニ改ム	藁蒲團
					個

参照 海軍會計法規類集下卷一九五頁

.0220

海軍諸例  
則登載

達第八十五號

砲銃主要兵器検査檢印規程中左ノ通改正ス

昭和十五年四月十一日

海軍大臣 吉田 善 吾

第四條中

造兵廠 東或ハト

志

ヲ

豊川工廠 豊或ハト

志

ニ改ム

(諸例則卷一、凡例四頁参照)

○正誤(濟)

本年達第七十八號中昭和十二年達第十二號ハ昭和十二年達第九十號ノ誤

達

二〇五

0221



達第八十六號

海軍臨時増給支給規則中左ノ通改正ス

昭和十五年四月十六日

海軍大臣 吉田 善 吾

別表ヲ別表ノ如ク改ム

附 則

本達ハ昭和十五年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(別表一葉添)

(會計法規類集中卷二二二ノ三ノ三頁参照)

達

二〇七

0222